



Go! 剛! NEWS!!

政務調査報告書

第31号

続・宗像ならではのグローバル人材育成は？

現代は「歴史的に時代の節目であり、新しい世紀が始まる」といわれています。

アフターコロナの社会の大変革を生き抜くには、前例のない世界で新しいものを生み出す創造力、日本人としてのアイデンティティ、コミュニケーション能力と協調性といったグローバル人材の特性は有利な能力となり、アフターコロナに求められる人材像とグローバル人材像が重なると考えます。

未来に向けてますますグローバル人材の育成は重要ですが、このような人材は、今までの教育や日本社会では育ちにくく、身近に模範となる存在は少ないと思います。

日本型教育の特徴は、全ての子どもたちに一定水準の教育を保障する平等性です。これは非常に大事ですが、グローバル人材のように社会の変動により必要とされる人材の育成は、能力や意欲のある子にさらなる成長機会を与え、人材像を体現して、リーダーとしての波及効果を出す、こういう公平な教育が必要と考えます。

多様な考えがありますが、このようなグローバル人材育成への助言・提案をするのが宗像市グローバル人材育成協議会です。産・学・官・民より知見がある委員で構成されており、グローバル人材育成に関する機関及び団体の連携を図ることを目的に設置されました。

この協議会に海外研修の中止を事後報告した際の議事録では、「長年続き、子どもたちの人生を変えるくらい影響力のある事業を、協議会で検討もせずに廃止した。協議会委員の役割は何なのか」という厳しい意見と今後に向けた提言を頂きました。

グローバル人材育成協議会の提言

市のシンボル事業としての輝き。目標として継続するため、学校選抜という方法(スカラシップ)でニュージーランドに派遣し、オンラインで共有するなど、アイデアが必要

信頼関係が一番重要。OB会や民間同志により、ウェブ交流などつなげていくことに価値がある。外部資金を活用する。コスト削減、民間リソースを生かす。

ポストコロナという状況の中で、事業の役割分担、成果、効果を見直すいい機会。重要なことは、築いてきたニュージーランド派遣という象徴的なレガシー効果をどのように広げていくか、全体事業をブラッシュアップさせていく。



この前向きな提言を受け、宗像ならではのグローバル人材が育つ機会をつくっていきます。

アフターコロナの教育のまち宗像

本市は、教育のまち宗像として、これまで小中一貫教育を軸に、確かな学力と豊かな心を育む教育活動の充実が図られてきました。令和7年度には市内に県立特別支援学校が開校し、特別支援教育のさらなる充実や波及効果が期待され、教育のまちとしての魅力向上が期待できます。

今後はアフターコロナを見据え、教育のまち宗像の魅力を戦略的に向上させ、都市間競争に勝ち抜く力をつけるべきだと考えます。

そのためには、ハード面の教育環境の整備も重要です。学校施設の多くは1980年代以前に整備され、その後40年ほど経過。宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画では、学校教育系施設の用途分類別延べ床面積の割合が50.9%を占めており、今後の大きな課題です。

国は「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」において、未来の教育環境をふまえ、ICTなど先端技術の高度化、ポストコロナ社会、少子高齢化と人口減少を踏まえた提案を行っており、「明らかな社会や教育環境の大きな節目である」としています。

市は「劇的な変化に直面する子どもたち一人一人が志を持ち、自分の将来や社会の未来を創造し、たくましく生き抜く力を育む場となる教育環境整備が必要」と考えており教育のまち宗像としての魅力向上にも欠かせないものです。

具体的に東郷小学校の課題である、10年間仮設のプレハブ校舎を使っていること、敷地が手狭でプール廃止による跡地有効利用を念頭に置いて、市全体の計画と課題について質問を行い、戦略的なプレハブ校舎の解消と計画の見直し、増築の検討に取り組みます。



プレハブの6教室を10年も利用しています。エレベーターも無く給食の上げ下ろしも大変。教育環境の改善が求められます

ご意見、ご感想などメッセージ頂ければ励みになります！

日々の活動はfacebookにて
fb.me/goyo4da

吉田ごうのホームページ
non3.jp/yoshidago

一般質問の会議映像は
宗像市役所HPにて



宗像市議会議員 吉田ごう

昭和48年 3月、宗像市田熊生まれ
東郷小学校～中央中学校卒業
平成3年 宗像高校卒業
平成8年 福岡大学経済学部卒業
平成8年 株式会社トランスオービット(旅行業)
入社、平成24年6月退社
平成24年 10月、宗像市議に初当選
令和2年 宗像市議に三選を果たす
現 在 宗像市久原に在住

吉田ごう 議員活動ダイジェスト

- 7月 山笠の人形飾りは例年になく、丁寧に。みんなの想いが細かいこだわりに。やっぱりこの山を奔らせたかったなあ、と思います。来年に持ち越し。東京オリンピックも始まり、アフターコロナにむけて日本が一丸となりたいところです。
- 8月 コロナ禍でラグビーの夏合宿は中止。若者の経験機会が無くなるのが本当につらい。でも、出来ることを精一杯やるしかないので、フォローしていきます。
- 9月 ゴマを収穫。ずっとやりたかった自家製のゴマ。昔、祖母を手伝ってつくったゴマの味が忘れられずに、育てました。手間がかかり国内生産が無くなる理由がよくわかりました。